



本村幼稚園 6月の園だより

令和6年5月31日 港区立本村幼稚園長 山崎 高志

園児の成長の機会

園長 山崎 高志

合同運動会での成長

5月25日(土)の合同運動会には保護者の皆様、地域の皆様に応援していただきありがとうございました。園児たちは小学生とも一緒に練習し、本番に臨みました。そして本番では、大勢の観客の前で全員が音楽に合わせて「スーパーHOMMURA ブラザーズ」を楽しんで踊ることができました。また、「かけっこ」も全力でまっすぐに走ることができました。おかげさまで参観していただいた皆さんから大きな拍手をいただき、園児たちにとって充実した合同運動会になりました。感謝申し上げます。



りす組もはと組も一人一人できることが増え、4月からの成長には本当に驚かされます。これからも幼稚園ではいろいろな

体験が控えているので、ますます園児の成長が楽しみでなりません。

幼児期のけんかは子供が育つ機会

幼児期の子どもにとって、けんかは日常茶飯事です。けんかを通して、コミュニケーション能力を高めています。でも、最近は子供がけんかをする前に大人が仲裁するのでけんかにならないことが多いです。以前、新聞記事に次のような話が載っていました。

ある大人が、ボールを2つ持って遊んでいた子が後から来た子にボールを貸そうとしない様子を見ていました。この時、皆さんなら、どうしますか。おそらくはけんかにならないように「1つ貸しなさい」と言うのではないのでしょうか。でも、その人は「ボール2つで遊びたかったのかも」と言うだけで介入しなかったそうです。すると、後から来た子供は「じゃあ、しばらく別の遊びをしてくる」と言ったそうです。これを読んで、今まで気付かない間に私たちは子供の考える力、育つ力を奪っていたのではないかと考えさせられました。トラブルがあった時こそ子供に自分で考えさせ、答えを大人が待つという見守る勇気が大事なのかもしれません。

そして、たとえけんかをしたとしても幼児期の子供同士の仲直りはとても速いです。悪いことをした子が「ごめんね」と言い、泣いていた子が「いいよ」と言ったら、おしまいです。大人にはまねできない子供の特権です。ぜひ、ご家庭でも「ごめんね」「いいよ」を使ってみてください。お子さんがいけないことをして叱る場面では、お子さんが「ごめんね」と言ったら、どんなに叱りたくても「いいよ」と言うように努めてください。すると、保護者の皆様が間違ってお子さんの大事なものを壊してしまった時でも「ごめんね」と言えば、泣きじゃくりながらも「いいよ」と言って許してくれます。

6月は「本村まつり」が控えています。ここも園児が大きく成長するチャンスです。皆様のご協力のほどよろしくお願いいたします。